

(様式1)

令和4年度 自己評価表 (最終)

愛媛県立新居浜工業高等学校

学校番号 (7)

教育方針	教育基本法及び学校教育法にのっとり、我が国の未来を切り拓く、豊かな人間性と創造性を身に付けた実践的技術者として、世界の平和と人類の福祉の向上に貢献し得る人物を育成する。	重点目標	自ら学び、自ら鍛え、たくましく生きる生徒の育成 ーものづくりを通じた人づくり、夢づくり、 ーそして、魅力ある学校づくりー ○ 人としての在り方生き方を身に付けた心豊かな生徒の育成 ○ 確かな学力の定着と実践的キャリア教育の推進による進路の実現 ○ 自己有用感を高め、充実感や達成感を味わえる活動の推進 ○ 地域を愛する優しい心と貢献する意欲を持った人材の育成
------	--	------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導	基礎学力の向上	常に授業改善に取り組むことで、分かる授業を推進し、基礎・基本の定着に向けた学習活動を展開する。 適切な家庭学習時間を確保することで、学習習慣を確立させる。 技能審査の成果の単位認定を促進することで、主体的な学習をさせる。	B	授業評価アンケート「授業は分かりやすく、質問には丁寧にこたえてくれますか」に対し、1学期97.0%、2学期97.3%の生徒が「はい」と回答しており、高評価を受けている。 考査期間中の学習時間は2時間をやや下回っており、十分とは言えない。授業で分かった内容の定着は家庭での学習によるので、学習時間の増加は今後の課題である。	分かる授業の推進は継続して進められているものの、100%を目指すことが求められる。次年度も同様に授業評価アンケートを軸に各教科でも調査・検討し、目標を達成したい。 基礎学力向上のために家庭学習の習慣も大切であるため、各教科で適切な課題の検討を呼び掛ける。
	教科指導の充実	アクティブラーニングの在り方について研究し、その実践に努める。また、ICT機器を積極的に活用した授業の推進を図る。 年間2回の相互授業参観週間を設け、積極的に他の教員の授業を参観し、指導方法の改善に努める。 総合教育センター研修や学校訪問研修等に積極的に参加し、教科指導力の向上を図る。	B	授業評価アンケートの「先生は……視聴覚機器を活用するなどの工夫をしていますか。」に対し、1学期93.9%、2学期は96.2%の生徒が「はい」と回答している。年度当初導入された電子黒板の活用が進んだものと考えられる。 本年度は相互参観授業だけではなく、公開授業も実施することができ、学校内外の方から授業を見ていただくことで、授業改善につなげることができた。	校内の研究授業については継続的に実施する。特にICTや電子黒板の活用方法をそれぞれが学べるような展開を検討したい。相互授業参観はもちろん、公開授業も引き続き実施し、幅広い意見を集約する。 学校訪問研修などの研修へは、自己研鑽と情報収集、情報の共有を目的に積極的に参加できるよう呼び掛ける。
学校経営	開かれた学校づくりのための学校公開と情報発信	<u>学校行事や部活動、各学科の授業の様子などを、学校ホームページや「新居浜工業高校公式チャンネル」などを活用して配信し、保護者や地域へ向けて、学校の魅力をアピールしていく。</u> <u>保護者向けの連絡等が携帯メール等を利用して確実に伝わるように努め、学校と家庭との連携がより強くなるように努める。</u>	A	学校ホームページでは、ほぼ毎日記事が更新されており、学校行事を中心に、生徒や学校の様子を伝える努力がされている。以前からある「新居浜工業高校公式チャンネル」に加えて9月より「公式ツイッター」を開設し、動画で部活動や各種コンテストの様子、各工業科の活動の様子を伝えており、多くのアクセスがあった。さらに、メール配信を活用した保護者への文書の配付案内は好評であり、登録率も96%を超えている。	ホームページや公式ツイッター、公式YouTubeチャンネルを活用し、生徒の様々な活動の様子を見ていただくことで、本校の魅力をたくさん知っていただくように努める。 メールの効果的な活用により、多くの連絡事項・学校情報を適切に発信していき、メール登録率100%を目指す。

学校経営	開かれた学校づくりのための学校公開と情報発信	PTA活動や学校行事への参加者の増大を図るとともに、保護者や地域住民からの提言を参考に改善に努める。	C	感染症拡大の影響でほとんどのPTA活動が中止となり、一般公開の予定であった文化祭も生徒のみの縮小開催となった。	SNSを活用したPTA連絡網の開設で連絡がスムーズになったので、更に効果的な利用方法を工夫する。
工業教育	実践的技術者としての知識・技術の充実	<p>ジュニアマイスターの取得対象者数をゴールド10人以上シルバー20人以上にし、卒業時の資格・検定取得数を1人当たり平均5個以上にする。</p> <p>ゴールド (A:10人以上、B:8人以上、C:6人以上、D:4人以上、E:4人未満) シルバー (A:20人以上、B:16人以上、C:12人以上、D:8人以上、E:8人未満) 卒業時 (A:5個以上、B:4個以上、C:3個以上、D:2個以上、E:2個未満)</p>	D	<p>ジュニアマイスターの取得対象者数は、ゴールド1人(評価E)、シルバー8人(評価D)となった。</p> <p>卒業時の資格・検定取得数は、1人当たり4.6個(評価B)となった。本年度卒業生は新型コロナウイルス感染症のため、受検機会のなかった資格検定があった。厚生労働省の補助金打ち切りにより、技能検定受検者が減少し、ジュニアマイスター顕彰対象者が少なかった。</p> <p>結果的に目標に対して実績が大きくかい離しており、全体としての評価はDとした。</p>	<p>難易度の高い資格検定に勇気を持ってチャレンジできる環境整備に努め、ジュニアマイスター顕彰に認定される生徒を増やしたいと思う。</p> <p>クラス全体で挑戦する資格検定については、昨年度と同様に生徒、家庭、教員の努力が成果となって表れた。今後も継続して資格検定取得を啓発したい。</p>
	ものづくり教育の推進	ものづくりコンテスト等各種競技大会で、全国大会出場3部門以上を目指す。取組内容の紹介・発表会等を積極的に開催するなど、その成果を校内外に広く知らしめる啓発活動を行う。	A	溶接競技とマイコンカーラリーは四国大会、ロボット競技は愛媛県大会といった厳しい予選会を勝ち抜き、全国大会に出場した。高校生ものづくりコンテスト(化学分析部門)愛媛県大会優勝、四国大会準優勝、NITプロダクトデザインコンテスト3Dモデリング部門で優秀賞、学校奨励賞を受賞した。	来年度も生徒が活躍できる各種競技会やコンテストの紹介・参加啓発を行うとともに、生徒が持つ技術・技能の向上に努め、ものづくりに興味・関心が持てるよう努めたい。
	地域貢献を目指して	一日体験入学、ものづくり教室、出前授業、製作物寄贈・メンテナンス等の活動など、校内外において地域と連携した有意義な取組を行う。	A	VYS部が市内歯科医院(7医院)に車を贈呈する活動を行った。新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、新工マイスタープロジェクトで計画したすべての工業教育を推進することができたと思う。地域産業界と連携した。	来年度も地域産業・地域資源に着目し、地域と連携しながら地域に愛される工業高校として、地域貢献・発展に寄与できる持続可能なものづくり活動を実践し、生徒の自己有用感・積極性を促したい。
ICT環境	ICT教育推進	「1人1台端末」を使った学習(課題配信・回収等)を、すべての教科において、少なくとも月に3回は実施する。	B	先生によって、ある程度の差はあるものの、端末を使用した学習も大分浸透してきた。効果的な学習ができるように今後も研究していきたい。	今年度、教室に電子黒板、ホワイトボードが配備された。このことによって授業でのICT活用の場が増えた。今後は学力が定着するような活用方法について研究を深めていく必要がある。
	SNS情報発信	<p>YouTubeチャンネルにおける年間平均再生回数500回、年間動画アップロード35動画を目指す。</p> <p>再生回数 (A:500回以上、B:400回以上、C:300回以上、D:200回以上、E:200回未満) 動画制作 (A:40以上、B:30以上、C:20以上、D:10以上、E:10未満)</p>	B	現在のところ、1動画あたりの平均再生回数は400回未満、動画制作は13である。	現在、急ピッチで制作している。年度末までには達成可能である。昨年度も、年度末までには目標を達成できた。校内研修も兼ねて、先生方にYouTubeチャンネルへの動画のアップロードを体験してもらっている。

ICT環境	校務分掌のデジタル化	生徒や保護者に対するアンケート調査など、配付物のデジタル化に努める。生徒用端末または保護者からの回答を直接担当者が回収でき、同時に集計や提出状況の把握が完了することで、業務の軽減を目指す。併せて押印の省略化を加速させる。	C	生徒へのアンケート調査については、各校務分掌において広く浸透していると言ってよい。生徒もアンケート回答にだいぶ慣れ、ホームルーム等での手際も良くなった。保護者へのアンケート回答については、難しい問題があり、進んでいないのが現状である。	学校業務の効率化、デジタル化を図るために、先生方からの相談に答えてきた。現状不十分なところもあるので、来年度はその課題を解決すべく努力していきたい。
特別活動	充実感ある学校行事の推進	運動会、新工祭、グループマッチなどの学校行事に、生徒を積極的に参加させ、達成感を味わわせるとともに、生徒会役員の主体性を引き出しながら、生徒会活動の活性化を図る。	B	新型コロナウイルス感染症の影響で運動会も種目を精選しての実施、新工祭も午前中の実施と制約があったものの、グループマッチや鹿森ウォーク等を含む学校行事に対して、意欲的・積極的に活動することができた。生徒会役員はスムーズな運営に貢献した。	生徒会活動の活性化を図り、学校行事のスムーズな運営を促して生徒に意欲的・積極的な活動をさせ、達成感・成就感を味わわせたい。
	地域共生プロジェクト	交流体験（ボランティア活動・保育・介護体験など）に積極的に参加させ、豊かな人間性を育む。	B	新型コロナウイルス感染症の影響で活動が制限され、災害防止ボランティアのみの活動になったが、生徒は意欲的に活動し、一緒に活動した地域の方々からも高評価をいただいた。	地域との連絡を密にし、地域との連携を深め、地域に貢献する活動を自主的・意欲的に取り組ませていきたい。
	部活動の充実	各部とも目標を高く掲げ、その達成に向けて精神力・技術力の強化を図る。 3年間継続して活動できる体制を作って、部の活性化を図る。	B	新型コロナウイルス感染症の影響で、活動時間や練習試合等に制約があったものの、運動部・文化部ともにしっかりと目標を掲げ、熱心に活動した結果、全国大会出場など素晴らしい成果を上げることができた。	例年より部活動加入率も高く、しっかりと活動ができている。これを継続していきたい。また、3年間継続できる体制を工夫し、更なる意欲的な活動・成果を促したい。
生徒指導	規範・防犯意識の育成	社会のルールを守り、健全な生活の確立を図る。 自転車置き場の整理整頓及び自転車の施錠を徹底させ、防犯意識の定着を図る。 登校時の交通指導を行い、ルール遵守の意識を高める。	C	生徒は、全体的には落ち着いた学校生活を送っていた。少数の生徒は、社会や学校のルールに違反したり、健全な人間関係を構築できずにトラブルになったりした。また、登下校の様子は、以前に比べると落ち着いた雰囲気であり、校内の自転車の施錠率も約85.5%とおおむね良好な結果である。しかし、ヘルメット未着用や交通マナーに違反する者が存在することへの苦情が数件あった。	校内外における生徒の雰囲気は決して悪くはなく、引き続き指導を継続していきたい。しかし、多くの先生方が目指している目標はより高い所にあるので、全教職員が主体的に努力していかなければならない。
	基本的習慣の確立	身だしなみの重要性を認識させ、高校生らしい身だしなみをする習慣を定着させる。 保護者と双方向の関係を確立するとともに、生徒とのふれあいを深め、遅刻・早退・欠席の防止に努める。	C	身だしなみ指導の1次合格者の平均は70%であり、不合格者には服装規定に沿って指導を行っている。特定の生徒は毎回1次不合格で指導を受けているが、改善の傾向が見られるとは言えない。保護者との関係は各先生方が適切に対応してくれているが、意見の相違があることもあった。遅刻を繰り返す生徒に対する指導については手詰まり感が大きい。	義務教育期間中に様々な教育を受けてきているにも関わらず規範意識があまりにも低い生徒には、学校生活の基礎から指導するしかない。また、基本的生活習慣が身に付いていない生徒に対しては、保護者と連携し指導をする。どちらも、直ぐに効果が出るような指導方法は無いが、粘り強く、諦めずに取り組むしかない。

教育相談	教育相談の充実	生徒理解を深め、悩みや困り感を抱える生徒や、支援を必要とする生徒との相談活動を充実させる。	C	複雑な家庭環境に置かれた生徒も多い。特に1年生においては、進路変更による中途退学者や不登校傾向の生徒もいた。それらを含めて、学校生活への適応に困難さを感じる生徒の現状を把握し、校内関係者と連絡、対応協議をしてきて、当該生徒への対応はある程度できていると考える。しかしながら、特定の生徒に対してこちらから呼び出しを行う相談活動に集中しており、自発的に来談する生徒がいないのが現状である。	全校生徒に対する呼び掛けを行うとともに、生徒との信頼関係の構築に努め、気軽に相談しやすい環境づくりが大切であると思われる。また、次年度に向けて、学校生活全般に意欲を持ってない生徒に対する相談活動を、広い視野を持って実行していく。
	特別支援教育の充実	支援を必要とする生徒やその保護者との対話を行うことで、日頃の状況や行動を的確に把握し、支援活動に生かす。外部の専門員からの指導・助言を受け、校内体制を充実させる。また、研修の機会を生かし、特別支援教育への理解を深める。	C	新居浜特別支援学校の「センター的機能」を活用し、支援の方向性について指導いただいた。教科担任等に周知し、支援の在り方を検討いただいている。 本年度の教職員研修は、講師を招いての講演会を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、外部講師を招くことができず、昨年同様映像による研修を行った。今年度も、独立行政法人教職員支援機構制作の動画を視聴した。	特別な支援が必要な生徒に対して、直接的な関わりを持つ指導者の現状や困り感を、アンケートを通して具体的に把握しつつ、より実効性のある指導体制を、校内全体で構築していく。
人権・同和教育	人権に配慮した個性の育成	日頃の生徒との関わりのなかで、生徒理解の観点に立ち、思いやりの心や自尊感情を育む。 すべての教育活動の中に同和教育の視点を位置づけ、日々の生活の中で様々な人権課題の解消に取り組むことのできる生徒を育てる。	B	本校生徒の日頃の生活態度から、自他を尊重する態度は育ちつつあると感じるが、まだ十分とは言えない。一方、人権委員をはじめとする生徒たちが現地研修会や人権フェスへ参加でき、相手を思いやり人権を尊重する心を育てるための機会を持つことができた。	全ての教育活動の場面において人権・同和教育の観点に立った指導が重要であると教師自身が自覚し、受容的な態度で生徒に接するとともに、生徒を励ます言葉掛けを実践する。
	いじめ、差別のないクラス	互いの人格を尊重する意識を醸成し、いじめの兆候を見逃さず、早期解決に努める。	B	いじめや差別のないクラスにするためホームルーム活動などを通して生徒に啓発し、教育相談課との連携の中でいじめ等の兆候の早期発見に努めた。	ホームルーム活動での学習の成果が日々の生活態度に反映され、いじめや差別を許さない行動に結びつくように更に啓発に努めていく。
進路指導	就職指導の充実	地域社会、保護者との緊密な連携を図り、生徒一人一人の適性に合った進路指導を推進し、自分自身が納得のいく進路実現に努めるとともに、就職内定率 100%を目指す。 (A:90%以上、B:80%以上、C:70%以上、D:60%以上、E:60%未満)	A	進路実現を目指して、ホームルーム活動等を利用した企業研究や職場見学、面接指導等に取り組んだ。生徒一人一人の能力や適性を十分把握し、それぞれの生徒に応じた進路指導を推進した。	企業の情報や、入社試験に向けての筆記指導や面接試験に必要な情報の提供などを通して、個々の適性に応じた進路指導を家庭の協力を得ながら進めていく。
	進学指導の充実	進学補習や模擬試験等の実施及びオープンキャンパス、学校説明会への積極的な参加を促し、自分自身が納得のいく進路実現に努めるとともに、進学先決定 100%を目指す。 (A:90%以上、B:80%以上、C:70%以上、D:60%以上、E:60%未満)	A	進学補習を行い、基礎学力の向上に努めさせた。また、新型コロナウイルス感染症対策を十分に行われた上で、オープンキャンパスや学校説明会へ積極的に参加させた。今年度も進学補習や本人の努力により、新居浜工業高等専門学校に合格することができた。	入学試験に必要な情報の提供や、個々の適性に応じた進学指導を学校と家庭を両輪として進めていく。

学校安全	学校安全の充実	定期的に施設設備における点検を行い、安全の確保と教育環境の向上・改善に努める。	C	教職員による日々の点検や、業者による専門的な点検を実施することで、安全上の問題点を明確にし、対策につなげた。 定期的な点検を十分に行えなかったことが、今後の課題である。	グループウェアのメッセージ機能を利用することで、点検票をデータ提出できるように改良し、少なくとも各学期1回の全体点検を実施したい。
		委員会活動を中心に、校内の美化向上に努める。	A	今年度より各教室がホワイトボードになり、昨年まで実施していたラーフクリーナーの清掃がなくなったが、校外外で美化活動に努めたほか、防災に関する様々な活動の中心となって活躍した。	今年度が続いて、防災に関する行事や美化活動において、中心的役割を果たすような委員会活動をさせたい。
		防災避難訓練や消火器等の使用訓練を通して、危機に対応できるスキルを身に付けさせる。	A	負傷者を担架等で搬送するなど、リアルな避難訓練を実施し、生徒の災害に対する危機意識も変化してきている。	自分の住む地域のハザードマップを見て避難場所を確認させ、家族での話し合いにより防災に対する取組が地域全体に広がるようにさせる。
学校保健	学校保健の充実	健康診断の機会に、生徒に自らの健康について関心を持たせ、自己管理能力の育成を図る。	C	保健便りや掲示物などを通して、それぞれの検診の意味を伝えられるようにした。健康診断後は異常の有無に関わらず全員に結果を通知し、自らの健康状態に目を向けられるようにした。	もっと直接的なアプローチを行うことで、生徒が自らの健康に関心を持ち、健康を維持しようとする力をより高めることができると考える。
		委員会活動を中心に、校内の衛生環境の整備や健康意識の向上に努める。	C	保健委員会の活動の中で、環境衛生検査や手洗い設備の点検等を行い、校内の衛生環境について確認することができた。	生徒自らが健康のための環境づくりができるようにするために、保健委員会の活動内容や校内環境について積極的な情報発信が必要である。
学校行政事務	教育環境の整備	予算の適正な執行により施設・設備の整備充実を図り生徒の健康に配慮した教育環境作りに寄与する。	A	学校配当予算及び随時令達される予算を執行し、トイレ修繕・外壁修繕・その他の修繕及び教育用備品の購入等を行った。	老朽化した建物及び設備が多数あり、学校配当予算のみでは対応しきれないため、優先順位を持って修繕を行っているが、至急必要となる個所については、高校教育課に予算令達の依頼を行う。
	会計処理の適正な執行の推進	県費、私費会計の有効で効率的な計画を行い、適正な処理体制のもとに予算の執行を行う。	B	年間を通じての予算については適切に執行している。 また、補正予算等の随時令達される予算は、早期執行を行った。	水道光熱費及び授業用資材等の高騰が起きている。 今後も状況が不明のため、予算に余裕を持たせて管理したい。
業務改善	適切な勤務時間	教職員の勤務時間を守り、休憩時間を確保する。業務の効率化を図り、時間の有効活用を図る。	B	教職員に対する連絡は校務支援システムのグループウェアのメッセージや掲示板機能を利用し、連絡の簡素化やペーパーレス化といった業務軽減を行った。また、各種会議の時間短縮を図った。	校務分掌等の業務の偏りをチェックし、必要に応じて改編等を行っていきたい。また、長期休業中等の教職員テレワーク制度の活用を推進し、より取得しやすい環境を整備したい。

	<p>職場環境の整備</p>	<p>健康講座や健康相談を定期的を実施し、教職員の疲労や心理的負担の軽減を図る。</p>	<p>B</p>	<p>健康相談室だよりの配布やメンタルヘルス関係・福利厚生が活用できるよう情報の発信に努めた。また、希望者対象に校医による健康相談を行った。</p>	<p>必要に応じて、「メンタルヘルス休日相談」「教職員心と体の健康相談」等の相談事業を紹介していきたい。</p>
--	----------------	--	----------	--	--

※評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。